平成11年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

2000

長野県更埴市教育委員会

更埴市埋蔵文化財調査報告書
1000
長野県更埴市教育委員会

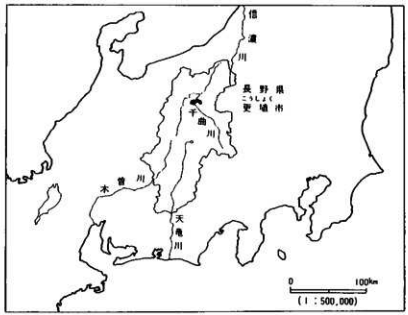
信州大学附属図書館教育学部分館

平成11年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

2000

長野県更埴市教育委員会



更埴市の位置

例　　言

1　本書は、更埴市教育委員会が平成11年度に実施した埋蔵文化財調査報告書である。

2　調査は、更埴市教育委員会生涯学習課が主体となり、文化財係が担当した。

更埴市教育委員会事務局

教育長	下崎文義
教育次長	竹内幸義
生涯学習課長	西沢秀文
文化財係長	金井幸二
文化財係	春原峰子　佐藤信之　小野紀男　宮島裕明　市川由江

3　調査担当者は、文化財係担当職員及び森将軍塚古墳館学芸員があたり、調査員・作業員を募り調査を実施した。また、必要に応じて研究者の指導・助言を受けた。

4　本書は、各調査担当者が執筆して作成した。発掘調査のうち、規模の大きなものについては本書と別冊で報告している。

5　本書に掲載した位置図は、特にことわりがない限り、更埴市都市計画基本図を２分の１に縮小し、5,000分の１で掲載した。

6　本書中の方位は真北を示している。

7　各調査の出土遺物・実測図・写真等のすべての資料は更埴市教育委員会が保管している。
なお、資料には各調査ごとに調査記号を付し、保管されている。

目　　次

例言・目次

平成11年度埋蔵文化財調査概要 …… 1

1　大塚遺跡　発掘調査 …… 7

2　市内遺跡　発掘調査 …… 13

3　生仁遺跡　発掘調査 …… 21

4　一丁田尻遺跡　発掘調査 …… 25

5～8　試掘調査 …… 29

5　宮沖遺跡　6　池尻遺跡　7　曽根塚古墳　8　大宮遺跡

9～18　立会調査 …… 34

9　元町遺跡　10　更埴条里水田址　11　栗佐遺跡群　12　土口遺跡

13　町浦遺跡　14　窪河原遺跡　15　堂河原遺跡　16　倉科水田址

17　南正徳遺跡　18　宮沖遺跡

平成11年度埋蔵文化財調査概要

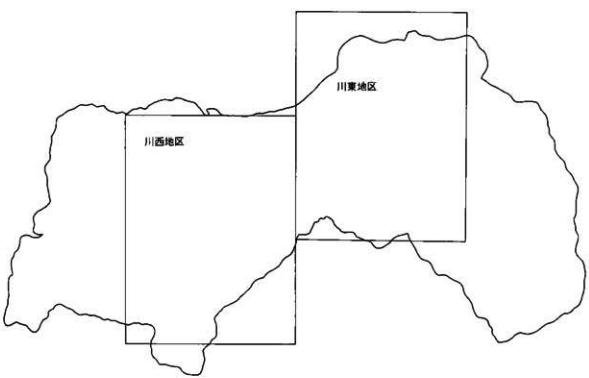
今年度実施した発掘調査は４件であり、昨年度とほぼ同じである。調査費用についても昨年並みとなっているが、開発事業に伴う調査は減少傾向にある。民間の開発事業に伴う発掘調査は昨年度に続いて１件もなく、公共事業に伴う発掘調査が３件実施されている。

公共事業では、平成９年度から実施している屋代中学校改築に伴う大塚遺跡の発掘調査が行われ、古墳時代中期と考えられる鍛冶関連遺構などが検出された。大塚遺跡の調査は本年度をもって完了し報告書が刊行される。県営ため池等整備事業に伴う生仁遺跡の発掘調査では、当初予想していたほどの住居跡の検出はなかったが、流路と考えられる落ち込み内より弥生時代から平安時代にかけての大量の土器や木製品などが出土した。また、しなの鉄道新駅建設に伴う一丁田尻遺跡の調査では、中世と考えられる水田面を検出した。

平成７年度から調査を開始した国道403号線土口バイパス建設に伴う発掘調査は、本年度報告書が刊行され、完了する予定である。

平成８年度より国庫補助を受け実施している市内遺跡の発掘調査は、屋代遺跡群の発掘調査に加えて今年度から森将軍塚古墳館事業として市内にある前方後円墳の調査を開始し、有明山将軍塚古墳の調査が行われた。全長６ｍを超える竪穴式石室が良好な状況で検出され、副葬品もわずかながら出土している。この他に屋代遺跡群大境遺跡の調査を実施した。

民間の開発事業は昨今の不況を反映してか全体的に落ち着いた状況にある。特に宅地造成に伴う調査が減少しており、試掘・立会調査を合わせて２件しかなかった。



第１図　調査位置配置図

平成11年度調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	原因事業	原因者
	発掘調査			
1	大塚遺跡	屋代	公共事業＝中学校建設	更埴市（学校教育課）
2	市内遺跡 有明山将軍塚古墳 屋代遺跡群大境遺跡	小島 屋代	学術＝範囲確認調査	更埴市 森将軍塚古墳館 生涯学習課
3	生仁遺跡	雨宮	公共事業＝県営ため池等整備事業	長野地方事務所
4	一丁田尻遺跡	屋代	公共事業＝しなの鉄道新駅建設	更埴市（政策推進課）
	試掘調査			
5	宮沖遺跡	桑原	民間事業＝工場建設	北川原正雄
6	池尻遺跡	桑原	公共事業＝マレットゴルフ場建設	更埴市（政策推進課）
7	曽根塚古墳	八幡	公共事業＝道路拡幅	長野地方事務所
8	大宮遺跡	雨宮	民間事業＝社務所建設	
	立会調査			
9	元町遺跡	桑原	民間事業＝宅地造成	(有)キザキ商事
10	更埴条里水田址	森	民間事業＝仮設事務所建設	(株)銭高組・日特建設(株)
11	粟佐遺跡群	屋代	民間事業＝宅地造成	日本キリスト合同教会 屋代教会
12	土口遺跡	土口	公共事業＝道路建設	更埴市（建設課）
13	町浦遺跡	雨宮	公共事業＝道路建設	更埴建設事務所
14	窪河原遺跡	雨宮	公共事業＝道路建設	更埴建設事務所
15	堂河原遺跡	杭瀬下	公共事業＝下水道建設	更埴市（下水道課）
16	倉科水田址	倉科	公共事業＝道路建設	更埴市（建設課）
17	南正徳遺跡	倉科	公共事業＝防火水槽建設	更埴市（消防署）
18	宮沖遺跡	桑原	公共事業＝防火水槽建設	更埴市（総務課）

調　査　期　間	面　積	費　用	備　　考
H11・4・12～5・7	300㎡	2,253,486円	
H11・8・30～9・25 H12・2・10～3・24	400㎡ 250㎡	8,032,047円	H12継続予定
H11・9・24～11・12	1,000㎡	5,500,000円	H12継続予定
H11・10・4～10・20	250㎡	1,023,588円	
H11・4・15	トレンチ3		
H11・5・25, 26	トレンチ6	27,360円	
H11・11・2	トレンチ1		
H11・12・6	トレンチ1	37,800円	
H11・7・9			
H11・7・19, 24			
H11・8・25			
H11・9・10			
H11・10・1			
H11・10・25			
H11・11・16			
H11・11・17			
H12・2・1			
H12・2・21			

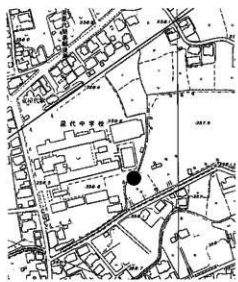
第2図　更埴市川西地区調査位置図（1：25,000）

第３図　更埴市川東地区調査位置図（１：25,000）

1　大塚遺跡　　発掘調査

I　調査の概要

1　調査遺跡名　大塚（おおつか）遺跡
　　（市台帳№31-1　調査記号 OTK）
2　所在地及び　更埴市大字屋代字大塚830 他
　　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝中学校改築
　　事業者　更埴市（学校教育課）
4　調査の内容　発掘調査（調査面積約300㎡）
5　調査期間　平成11年4月12日～平成11年5月7日
6　調査費用　2,253,486円
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　　担当者　小野紀男
8　種別・時期　集落跡・水田跡　古墳時代～平安時代
9　遺構・遺物　住居跡　古墳～平安時代　9棟
　　水田跡　平安時代　1面
　　土坑　古墳時代　1基
　　溝　古墳時代～中世　4基
　　土器片　古墳時代～中世　コンテナ　5箱



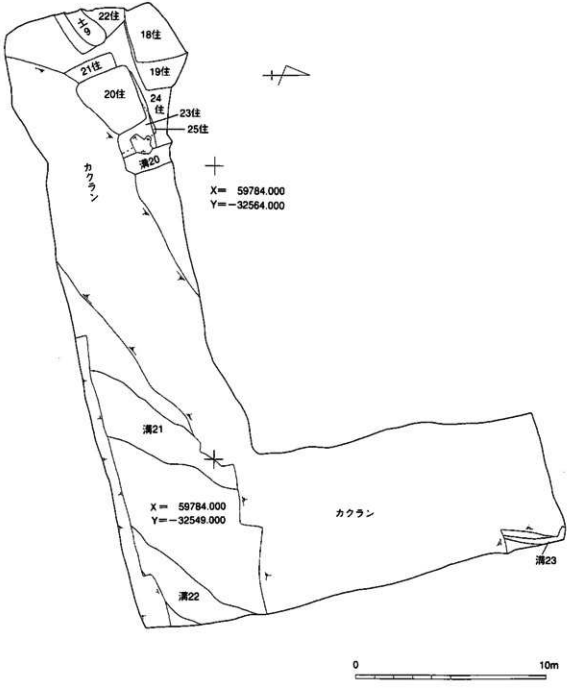
第4図　大塚遺跡調査位置図

II　調査の所見

調査は平成9年度より継続して実施しており、今年度は部室棟建設予定地の調査を行った。調査面積は約300㎡であったが、旧五十里川と屋代用水により攪乱されていて、実際に調査することのできた部分は120㎡程度しかなかった。これまでの調査結果から、全面にわたって洪水砂に覆われた平安時代の水田跡が検出されるものと想定していたが、予想に反して水田跡は調査区北東隅から検出しただけであった。調査区西側では洪水砂の堆積はほとんど認められず、古墳時代中期を中心とした遺構を検出した。古墳時代中期とした遺構は竪穴住居7棟、土坑1基であり、このうち特に注目されるものに20号住居跡があげられる。本住居跡は一辺3.2m程の比較的小型の住居跡であるが、出土遺物には羽口、鉄滓などがあり、また鉄滓の付着した地床炉や金床石と考えられる石塊も検出していることから、鍛冶関連遺構と考えられるものである。羽口には専用に作られたものと、高杯の脚部を転用したものの2種類が認められる。鉄滓の出土量は約400gと比較的少ないため、鍛錬鍛冶が行われていたものと考えられる。出土遺物などから5世紀前半～中頃にかけてのものと考えられ、これまでのところ、長野県内において鍛冶関連遺構、遺物が合わせて検出された最古例の一つと考えられる。平成9年度調査の1号住居跡からも、羽口と鉄滓の付着した地床炉を検出している。時期的には1号住居跡が若干先行するものと考えられ、また両者の距離は40m程と比較的近く、調査地周辺で継続的に鉄生産が行

われていた可能性が指摘できるものと考えられる。

屋代中学校改築に伴う発掘調査は本年度をもって完了し、報告書が刊行される。



第5図　大塚遺跡遺構全体図

大塚遺跡全景
（西側より）

東側より

南側より

集落域全景
（南東側より）

18号住居跡
（北側より）

20号住居跡
（南側より）

22号住居跡
（西側より）

9号土坑
（西側より）

水田面及び畦畔
（南側より）

大塚遺跡
20号住居跡出土遺物

22号住居跡出土遺物

左　24号住居跡出土遺物
右　25号住居跡出土遺物

9号土坑出土遺物

2　市内遺跡　　発掘調査

Ⅰ　調査の概要

第６図　大境遺跡調査位置図

1　調査遺跡名　有明山将軍塚古墳（市台帳№26）
　　昭和48年10月24日　更埴市指定文化財史跡に指定
　　屋代遺跡群大境遺跡（市台帳№31-13）

2　所在地及び土地所有者　有明山将軍塚古墳
　　更埴市大字屋代字一重山334番地４他　　更埴市他
　　屋代遺跡群大境遺跡
　　更埴市大字屋代字大境　　オリオン機械㈱

3　原因及び事業者　学術調査
　　更埴市教育委員会
　　生涯学習課文化財係・更埴市森将軍塚古墳館

4　調査の内容　有明山将軍塚古墳　発掘調査（調査面積400㎡）
　　屋代遺跡群　　発掘調査（調査面積250㎡）

5　調査期間　有明山将軍塚古墳　平成11年８月30日～平成11年９月25日
　　屋代遺跡群　　平成12年２月14日～平成12年３月24日

6　調査費用　8,032,047円

7　調査主体者　更埴市教育委員会
　　調査指導　岩崎卓也　東京家政学院大学教授
　　木下正史　東京学芸大学教授
　　担当者　矢島宏雄　更埴市森将軍塚古墳館
　　佐藤信之　更埴市教育委員会
　　調査員　小野紀男　更埴市教育委員会
　　調査協力　東京学芸大学文化財科学学科　関係土地所有者ほか

8　種別・時期　有明山将軍塚古墳　古墳　古墳時代
　　屋代遺跡群　集落跡　弥生時代～中世

9　遺構・遺物　有明山将軍塚古墳　全長36.5m　前方後円墳
　　出土遺物　青銅製鏡１点　鉄器小片　硬玉製勾玉１点
　　碧玉製管玉３点　ガラス小玉25点　土器片
　　屋代遺跡群　竪穴住居跡　古墳～平安時代　19棟
　　掘立柱建物跡　平安時代　１棟
　　土坑　古墳時代～中世　６基
　　堀　中世　１基
　　出土遺物　土器片　弥生時代～中世　コンテナ10箱

Ⅱ　調査の所見

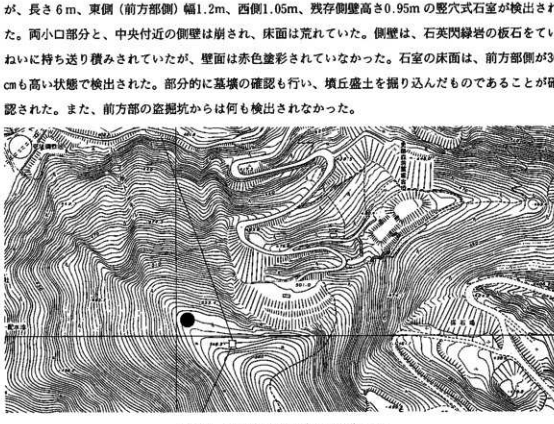
1　有明山将軍塚古墳

調査の経過：更埴市内には、森将軍塚古墳をはじめ土口将軍塚古墳、倉科将軍塚古墳、有明山将軍塚古墳の４基の前方後円墳が所在する。これまでに森将軍塚古墳は、昭和56年度～平成３年度に実施された史跡保存整備事業に伴い調査が行われている。また土口将軍塚古墳は昭和57年度～61年度に埴輪の盗掘に伴い緊急調査が行われている。倉科将軍塚古墳は、昭和59年度に『更埴市史』刊行に伴いトレンチ調査が行われているが、古墳の範囲や内容を確認するまでに至っていない。こうした中で、市教育委員会では「更埴市森将軍塚古墳館」の博物館事業の一環として、更埴市内の前方後円墳の実態確認、また墳丘上の大きな盗掘坑を埋め戻し古墳の保存を図るために範囲確認調査を計画した。本事業は、国・県の補助を得て３か年で実施するもので、初年度の本年は有明山将軍塚古墳の調査を実施した。調査の実施にあたっては、東京学芸大学（木下正史教授）の応援を得て行った。

墳丘及び竪穴式石室：今回の範囲確認調査では、墳丘の周囲を含めた墳丘測量と、墳丘主軸、後円部くびれ部、前方部前端等にトレンチを設けて墳丘範囲の確認を行った。また後円部と前方部の墳丘上にある大きな盗掘坑を精査のうえ埋め戻し、墳丘の保存を図った。

墳丘は、墳丘主軸Ｎ－66°－Ｗを示し、西に寄った有明山の尾根に沿って、標高540m 前後に設けられている。墳丘の全長は36.5m を測り、後円部は２段築成、前方部は墳丘北側（善光寺平側）のみ２段築成で、墳丘表面は石英斑岩の拳大から人頭大の葺石により覆われていた。墳丘上、段築部、墳丘裾部のいずれからも埴輪片の出土はなく、埴輪の樹立はなかったことが確認された。

後円部には大きな盗掘坑があり、主体部は盗掘により破壊され残存していないものと予想していたが、長さ６m、東側（前方部側）幅1.2m、西側1.05m、残存側壁高さ0.95m の竪穴式石室が検出された。両小口部分と、中央付近の側壁は崩され、床面は荒れていた。側壁は、石英閃緑岩の板石をていねいに持ち送り積みされていたが、壁面は赤色塗彩されていなかった。石室の床面は、前方部側が30cmも高い状態で検出された。部分的に墓壙の確認も行い、墳丘盛土を掘り込んだものであることが確認された。また、前方部の盗掘坑からは何も検出されなかった。



第７図　有明山将軍塚古墳調査位置図

出土遺物：墳丘から埴輪は１片の出土もなかった。南側くびれ部墳丘裾部や後円部南側の墳丘斜面からわずかに土器の出土があったが、器形や時期を特定できるほどの破片はなかった。石室の調査に伴って墓墳内のかく乱された土の中から、直径4.0cmの青銅製小型の鏡１面の出土があった。この鏡は外区に三角形の鋸歯文、櫛歯文を施した珠文鏡である。石室内床面付近のかく乱された土の中から、硬玉製勾玉１点、碧玉製管玉３点、ガラス小玉25点のほかに、鉄片が若干出土した。いずれも原位置をとどめているものではない。鉄片の中には、鉄斧片１点を除くと小札片と考えられる小孔を持つ破片もあり、小札革綴甲冑の副葬が想定される。しかし、盗掘により副葬品の実態は不明で、また今回の出土遺物から、築造年代にせまれるものは少なく、今後の検討課題は大きなものがある。

まとめ：これまで、有明山将軍塚古墳はその規模（墳長32m）や墳形から、６世紀はじめの前方後円墳と考えられてきたが、今回の調査で墳丘規模36.5m、２段築成であることが確認され、竪穴式石室の存在から５世紀代の古墳である可能性が高いことが明らかとなった。しかし、埴輪の樹立がないことから、更埴市域の前方後円墳の中では異質な存在であることも明らかとなった。今後、出土遺物をはじめ整理調査により、築造年代や古墳系譜等検討されなければならない課題も残された。

２　屋代遺跡群大境遺跡

上信越自動車道建設や国道403号線土口バイパス建設などに伴う調査によって、大型の掘立柱建物跡が検出され、また国府・郡府を含む多数の木簡や唐三彩など特殊な遺物が出土したことから、周辺に官衙が存在する可能性が指摘されているため、その存在を確認し保護することを目的として、平成８年度から調査を行っている。

今年度は、上信越自動車道の発掘調査の際、木簡が出土した地点の西側約100mに当たる自然堤防上の調査を実施した。調査地点のすぐ北側は木簡が出土した流路跡に当たる部分であり、現在でも自然堤防上とは約１ｍの比高差を測ることができる。

検出した遺構は竪穴住居跡19棟、掘立柱建物跡１棟などであるが、官衙に直接関係すると考えられる遺構の検出はなかった。詳細な検討は行っていないが、検出した住居跡の大半は古墳時代に属するものと考えられる。古墳時代とした住居跡には、箱清水式土器の特徴を残した遺物を持ったものも含まれていることから、古墳時代初頭に属する住居跡も存在するものと考えられる。調査地に南接する中部電力雨宮変電所の調査の際にも、古墳時代の集落は自然堤防の北側に集中する傾向が指摘されており今回の調査においても、これを裏付ける結果が得られた。

調査地に隣接する「城ノ内」地籍にはその字名が示すとおり、中世の居館があったとされており、旧地籍図や城ノ内遺跡、大境遺跡の発掘調査によって、一辺約100mの方形の居館跡が想定されている。特に変電所地点の調査では、幅約８m、検出面からの深さ約２ｍを測り、ほぼ直角に折れ曲がる堀と考えられる溝を検出している。本調査地点でも、この溝の延長部分を検出した。溝の大部分が調査区外に当たるため規模は不明であるが、やはり検出面からの深さ約２ｍを測り、大型の溝になるものと思われる。

有明山将軍塚古墳全景
(前方部側より)

北側くびれ部
(善光寺平側)

南側くびれ部
(小島側)

竪穴式石室全景
（前方部側より）

竪穴式石室内部
（前方部側より）

大境遺跡
調査風景

1号掘立柱建物跡
(西側より)

4号住居跡
(南側より)

6号住居跡
(南側より)

10号住居跡
(東側より)

11号住居跡
(西側より)

15号住居跡
（北側より）

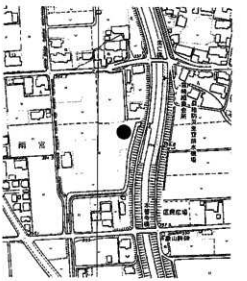
17号住居跡
（西側より）

1号溝断面
（南側より）

3　生仁遺跡　　発掘調査

I　調査の概要

1　調査遺跡名　生仁（なに）遺跡
　　（市台帳№31-11　調査記号 NM IV）
2　所在地及び　更埴市大字雨宮字生仁
　　土地所有者　長野地方事務所
3　原因及び　公共事業＝県営ため池等整備事業
　　事業者　長野地方事務所
4　調査の内容　発掘調査（調査面積約1,000㎡）
5　調査期間　平成11年9月24日～平成11年11月12日
6　調査費用　5,500,000円
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　　調査指導　木下正史　東京学芸大学教授
　　担当者　佐藤信之　更埴市教育委員会
8　種別・時期　集落跡　弥生時代～平安時代
　　自然流路　〃
9　遺構・遺物　住居跡　古墳時代～平安時代　4棟
　　水田跡　平安時代～近世　3面以上
　　自然流路　弥生時代～平安時代　1基？
　　土器片　弥生時代～平安時代　コンテナ　25箱
　　木製品　弥生時代～平安時代　コンテナ　8箱
　　その他　骨角器・鉄斧・磨製石斧等



第8図　生仁遺跡調査位置図

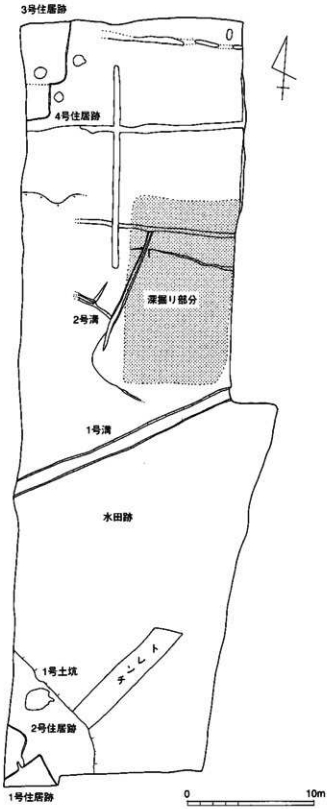
II　調査の所見

調査地は、昭和63年に用水路建設に伴い調査が実施され、古墳時代から平安時代の住居跡が、多数検出された地点の東側約80m に位置しているため、生仁遺跡の南東隅ではあるが、集落跡の存在を想定し調査を開始した。

調査の結果、調査区南西隅から平安時代の住居跡2棟、北西隅からは古墳時代の住居跡2棟が検出されたが、東側から中央部分は低地となり、平安時代には水田として利用されていた。水田部分を斜めに伸びる溝は、近世の遺構と思われる。

また調査区中央北寄りの、排水機設置予定地部分を3mほど掘り下げたところ、多量の遺物が出土した。このため拡張して下部の調査を行った。下部からは土器が集中する地点や、杭などが検出され直径50cmを超える自然木や、農具を中心とする木製品などが多数出土している。現在整理作業を実施中であり詳細は不明であるが、調査地点の東側を流れる沢山川が入江状に入り込んでおり、その入江を利用した何らかの施設があったものと思われる。

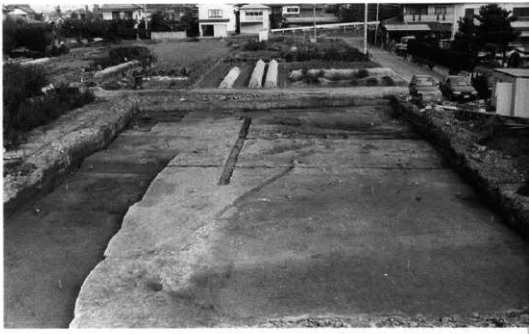
調査は平成12年度に継続し、報告書を刊行する予定である。



第9図　生仁遺跡全体図（1：300）

遺跡遠景
(北東より)

調査区南側
(北側より)



調査区北側
(南側より)

3号住居跡
(西側より)

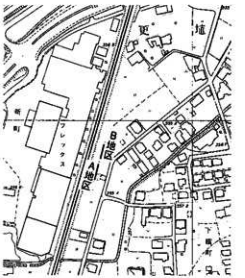
深掘り部分
(南側より)

遺物出土状態
(西側より)

4　一丁田尻遺跡　　発掘調査

I　調査の概要

1　調査遺跡名　一丁田尻遺跡
　　（市台帳№31-3　調査記号 IDJ）
2　所在地及び　更埴市大字屋代字新田
　　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝しなの鉄道新駅建設
　　事業者　更埴市（政策推進課）
4　調査の内容　発掘調査（調査面積約250㎡）
5　調査期間　平成11年10月4日～平成11年10月20日
6　調査費用　1,023,588円
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　　担当者　小野紀男
　　調査参加者　井出義文　岩崎鹿雄　大久保修身　小松よね　松本　晃　柳沢悦子
8　種別・時期　水田跡　平安時代～中世
9　遺構・遺物　水田跡　中世　1面
　　土器片　平安時代～中世　30点



第10図　一丁田尻遺跡調査位置図

II　調査の経過

平成9年2月、市政策推進室（現政策推進課）よりＪＲ信越線（現しなの鉄道）屋代駅－篠ノ井駅間に新駅の建設を計画しているとの連絡があり、文化財保護法57条に基づく通知があった。市教育委員会では当該地は南側の一部が一丁田尻遺跡として周知されている埋蔵文化財包蔵地であるため、事前に試掘調査が必要である旨報告を行った。平成10年度に入り、工事予定地の用地買収が完了したため平成10年11月10日、試掘調査を実施した。その結果、地表下約90cm及び190cmより水田面と考えられる層序を確認した。この調査結果をもとに担当課と改めて協議を行ったところ、平成11年度に発掘調査を実施することとなった。

平成11年10月4日より調査を開始し、調査区内全面より中世と考えられる水田面を検出した。また下層の水田面については、部分的にトレンチを入れ層序の確認に止めたが、調査区内全面に広がっていることが確認された。10月20日、重機による埋め戻しを終え、現場における作業を終了した。

III　遺跡の環境

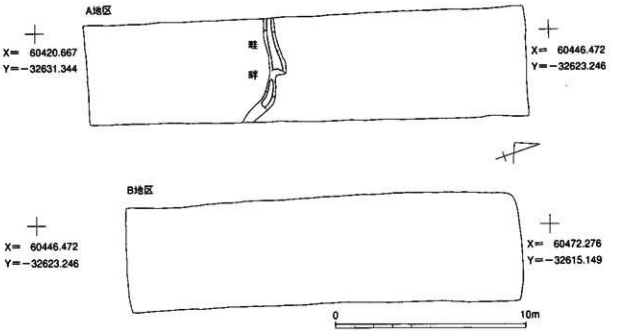
発掘調査地は、東経138度８分８秒、北緯36度32分39秒、海抜355m付近に位置し、長野県更埴市大字屋代字新田に所在する。遺跡は、千曲川が北西から北東に大きく流れを変える部分の東岸にあたり、周辺の遺跡を含めて大きく屋代遺跡群として把握されている。屋代遺跡群は、千曲川の自然堤防上に東西3.5km、南北１kmにわたって展開する更埴市最大の遺跡群で、高速道路や新幹線などの建設に伴う発掘調査で、縄文時代から平安時代にかけての住居跡等が多数検出されている。また自然堤防の南側の後背湿地には平安時代の更埴条里水田址が拡がっている。調査地周辺はこれら自然堤防上の遺跡群から一段下がったところにあり、旧地形図や航空写真などから、千曲川の旧河道上にあたるものと考えられている。

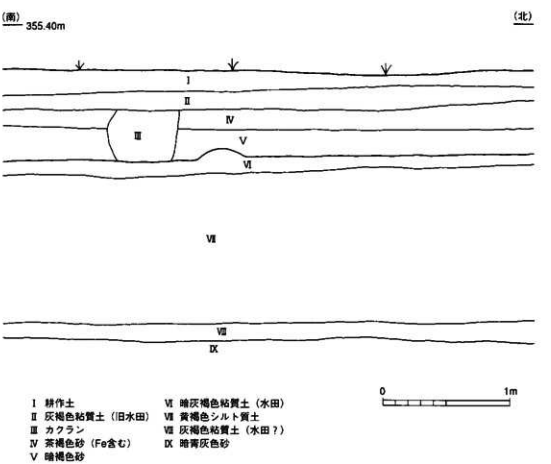
IV　調査の所見

調査は、工事予定地内に幅６m、長さ20m程の調査区を２か所設定して行った。基本層序は、現耕作土の下にもう一面水田面が確認でき、その下層に約40cmの厚さで砂質土が堆積している。この砂層の下より中世と考えられる水田面を検出した。この水田面の下層は黄褐色のシルト質土が1.2mほど堆積し、水田面の可能性のある灰褐色の粘質土となっている。両調査区とも全面にわたって中世と考えられる水田面を検出したが、畦畔等の構築物はＡ地区より検出した畦畔１条のみである。この畦畔は緩く弧を描き、ほぼ東西方向に走っている。また調査区ほぼ中央付近で水口と考えられる開隙が認められる。この畦畔は断面形がかまぼこ形を呈し、下底部の幅60cmを測る比較的小型の畦畔である。水田面の標高は畦畔の北側で354.37m、南側で354.32m前後を測ることができ、南側の方が低くなっている。Ｂ地区では畦畔等は検出できなかったが、水田面の標高はＡ地区のものとほぼ一致しており一連の遺構であると考えられる。

出土遺物には土師器、中世陶器などがあるが、主体となるものは中世陶器である。出土量は30点程度と少なく、またいずれも小破片であるので図化できるものはないが、青磁や瓦質の擂鉢、内耳土器の破片などが出土している。

今回の調査により検出した水田面は中世と考えられるものであり、平安時代の水田面を検出することはできなかった。調査地周辺は、旧地形図などから千曲川旧河道上にあたる所と考えられており、少なくとも中世段階においては、この旧河道はすでに埋没して水田が開田されていたことが明らかとなった。調査範囲が限られていたため、水田面の区画等は不明であるが、このような小さな調査の積み重ねが屋代遺跡群の古代景観の復元につながるものと考えられる。





第11図　一丁田尻遺跡全体図及び土層断面図

一丁田尻遺跡
A地区全景（南側より）

B地区全景（南側より）

調査風景

5　宮沖遺跡　　試掘調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　宮沖遺跡（市台帳No71-3）
2　所在地及び　更埴市大字桑原字宮沖44-4
　土地所有者　北川原正雄
3　原因及び　民間事業＝工場建設
　事業者　北川原正雄
4　調査の内容　試掘調査（トレンチ3か所）
5　調査期間　平成11年4月15日
6　調査費用　重機負担
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　佐藤信之
8　種別・時期　集落跡　　奈良時代～平安時代
9　遺構・遺物　なし

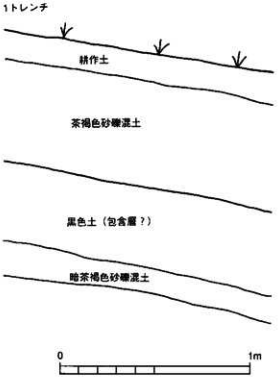
第12図　宮沖遺跡調査位置図

Ⅱ　調査の所見

調査地は東向きの扇状地であり、周辺では平成8年度に老人保健施設建設に伴い、湯屋遺跡の発掘調査が行われ、弥生～平安時代の住居跡80棟などが検出されている。

工事予定地内に3か所の試掘トレンチを設定して調査を実施した。各トレンチ共、耕作土下には礫混じり土が50～60cm堆積しており、1、2トレンチではこの下層に包含層の可能性のある黒色土の堆積を確認したが、遺構、遺物の検出はなかった。

今回の試掘調査では、埋蔵文化財は確認されなかったため、立会調査により保護に当たることとした。

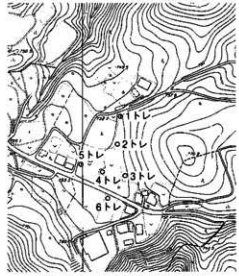


第13図　宮沖遺跡土層断面図

6　池尻遺跡　　試掘調査

I　調査の概要

1　調査遺跡名　池尻遺跡（市台帳No83）
2　所在地及び　更埴市大字桑原字宿打平3053-3他
　土地所有者　更埴市他
3　原因及び　公共事業＝マレットゴルフ場建設
　事業者　更埴市（政策推進課）
4　調査の内容　試掘調査（トレンチ６か所）
5　調査期間　平成11年５月25日、26日
6　調査費用　27,360円
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　小野紀男
　調査参加者　猿渡久人　　富沢豊延
8　種別・時期　集落跡
　縄文時代・奈良～平安時代
9　遺構・遺物　なし



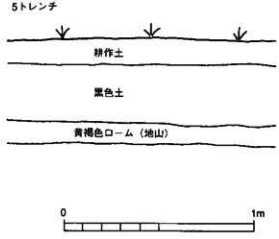
第14図　池尻遺跡調査位置図

II　調査の所見

当該地は大田原マレットパーク建設に伴い平成９年度に発掘調査が行われ、縄文時代の土坑などが検出されている。今回、マレットパークの拡張工事に伴い試掘調査を実施した。

工事予定地内に６か所の試掘トレンチを設定して調査を行ったが、いずれのトレンチも耕作土の下は黄褐色のローム層となっていて埋蔵文化財は確認できなかった。

このため、工事着手時に立会調査を行い、保護に当たることとした。



第15図　池尻遺跡土層断図

池尻遺跡
2トレンチ

3トレンチ

5トレンチ

7　曽根塚古墳　　試掘調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　曽根塚（そねづか）古墳（市台帳№87）
2　所在地及び　更埴市大字八幡字判官塚7430-1
　土地所有者　佐藤勇
3　原因及び　公共事業＝道路拡幅
　事業者　長野地方事務所
4　調査の内容　試掘調査（トレンチ１か所）
5　調査期間　平成11年11月２日
6　調査費用　重機負担
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　小野紀男
8　種別・時期　古墳　　古墳時代
9　遺構・遺物　なし

第16図　曽根塚古墳調査位置図

Ⅱ　調査の所見

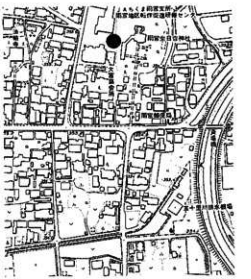
曽根塚古墳の墳裾に当たる部分が当該工事にかかるため、事前に試掘調査を実施したものである。その結果、工事予定部分は水田開田時にすでに削平され、裾部分を確認することができなかったため立会調査により保護に当たることとした。

第17図　曽根塚古墳調査風景

8　大宮遺跡　　試掘調査

I　調査の概要

1　調査遺跡名　大宮遺跡（市台帳№31-20）
2　所在地及び　更埴市大字雨宮字大宮
　土地所有者　雨宮坐日吉神社
3　原因及び　民間事業＝社務所建設
　事業者　雨宮坐日吉神社
4　調査の内容　試掘調査（トレンチ１か所）
5　調査期間　平成11年12月６日
6　調査費用　37,800円
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　佐藤信之
8　種別・時期　集落跡　　弥生時代～平安時代
9　遺構・遺物　土器片

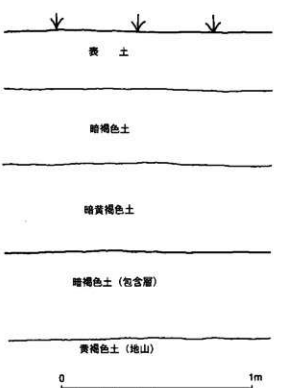


第18図　大宮遺跡調査位置図

II　調査の所見

調査地は重要無形民俗文化財「雨宮の御神事」で知られる雨宮坐日吉神社の境内であり、社務所建設に先立ち試掘調査を行った。

約30cmの表土の下には、暗褐～暗黄褐色土が80cm程堆積している。その下層は遺物の混じった暗褐色の包含層となっていて、地表下160cmで黄褐色の地山層となった。



第19図　大宮遺跡土層断面図

9　元町遺跡　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　元町（もとまち）遺跡（市台帳№74）
2　所在地及び　更埴市大字桑原字湯ノ崎1970他
　土地所有者　西沢剛志他
3　原因及び　民間事業＝宅地造成
　事業者　㈲キザキ商事
4　調査期間　平成11年7月9日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　小野紀男
6　種別・時期　集落跡　　縄文～平安時代
7　遺構・遺物　なし

第20図　元町遺跡調査位置図

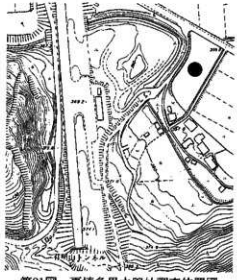
Ⅱ　調査の所見

工事は盛土により宅地を造成するものであり、下部への掘り込みはなかった。

10　更埴条里水田址　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　更埴条里水田址（こうしょくじょうりすいでんし）（市台帳№29）
2　所在地及び　更埴市大字森字大浦521-1 他
　土地所有者　近藤よしい他
3　原因及び　民間事業＝仮設事務所建設
　事業者　㈱銭高組・日特建設㈱
4　調査期間　平成11年7月19日、24日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　佐藤信之
6　種別・時期　水田址　　平安時代～中世
7　遺構・遺物　なし



第21図　更埴条里水田址調査位置図

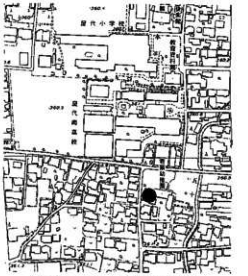
Ⅱ　調査の所見

平成5年に行った調査では古墳時代の竪櫛などが出土したが、今回の調査は排水管の敷設部分のみの調査であったため、遺構・遺物とも検出されなかった。

11　粟佐遺跡群　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　粟佐遺跡群（市台帳№28）
2　所在地及び　更埴市大字屋代字新屋2091他
　土地所有者　日本キリスト合同教会屋代教会
3　原因及び　民間事業＝宅地造成
　事業者　日本キリスト合同教会屋代教会
4　調査期間　平成11年8月25日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　小野紀男
6　種別・時期　集落跡　　古墳～平安時代
7　遺構・遺物　なし



第22図　粟佐遺跡群調査位置図

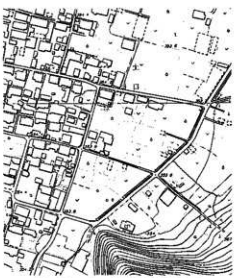
Ⅱ　調査の所見

工事による掘削は30cm程であり、遺構・遺物とも検出されなかった。

12　土口遺跡　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　土口遺跡（市台帳№39）
2　所在地及び　更埴市大字土口字東261-1 他
　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝道路建設
　事業者　更埴市（建設課）
4　調査期間　平成11年9月10日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　小野紀男
6　種別・時期　集落址　　縄文～平安時代
7　遺構・遺物　なし


第23図　土口遺跡調査位置図

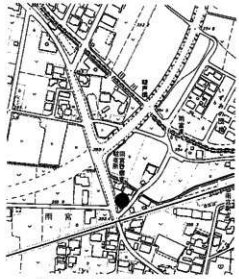
Ⅱ　調査の所見

工事による掘削は40cm程であり、遺構・遺物とも検出されなかった。

13　町浦遺跡　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　町浦（まちうら）遺跡（市台帳№31-21）
2　所在地及び　更埴市大字雨宮字町浦400-1
　　土地所有者　長野県
3　原因及び　公共事業＝道路建設
　　事業者　更埴建設事務所
4　調査期間　平成11年10月1日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　　担当者　佐藤信之
6　種別・時期　集落跡　弥生～平安時代
7　遺構・遺物　住居跡　1棟



第24図　町浦遺跡調査位置図

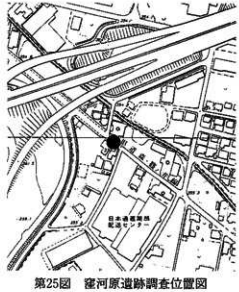
Ⅱ　調査の所見

現地表下約90cmより住居跡と考えられる層序を確認したが、工事による掘削は50cm程であった。

14　窪河原遺跡　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　窪河原（くぼがわら）遺跡（市台帳№31-17）
2　所在地及び　更埴市大字雨宮字窪河原649-1
　　土地所有者　長野県
3　原因及び　公共事業＝道路改良
　　事業者　更埴建設事務所
4　調査期間　平成11年10月25日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　　担当者　佐藤信之
6　種別・時期　集落跡　縄文～平安時代
7　遺構・遺物　なし


第25図　窪河原遺跡調査位置図

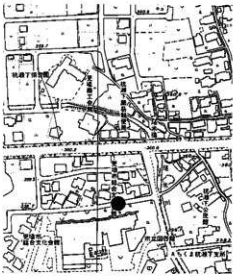
Ⅱ　調査の所見

工事による掘削は30cm程であり、遺構・遺物とも検出されなかった。

15　堂河原遺跡　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　堂河原遺跡（市台帳№140）
2　所在地及び　更埴市大字杭瀬下字堂川原
　　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝下水道建設
　　事業者　更埴市（下水道課）
4　調査期間　平成11年11月16日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　　担当者　佐藤信之
6　種別・時期　墳墓跡　　近世
7　遺構・遺物　墓石・石仏



第26図　堂河原遺跡調査位置図

Ⅱ　調査の所見

現地表下約1.8mの砂層中より墓石と石仏1基が出土したが、遺構は検出されなかった。総合文化会館建設の際にも出土しており、これらと一連のものであると考えられる。

16　倉科水田址　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　倉科水田址（市台帳№211-2）
2　所在地及び　更埴市大字倉科字石杭1660-4
　　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝道路建設
　　事業者　更埴市（建設課）
4　調査期間　平成11月11月17日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　　担当者　小野紀男
6　種別・時期　水田跡　　平安時代～中世
7　遺構・遺物　なし

第27図　倉科水田址調査位置図

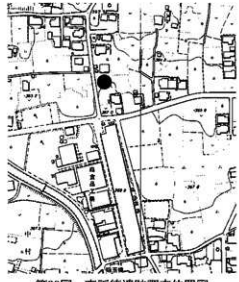
Ⅱ　調査の所見

工事による掘削は40cm程であり、遺構・遺物とも検出されなかった。

17　南正徳遺跡　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　南正徳遺跡（市台帳№160）
2　所在地及び　更埴市大字倉科字南正徳
　土地所有者　森食品工業㈱
3　原因及び　公共事業＝防火水槽建設
　事業者　更埴市（消防署）
4　調査期間　平成12年２月１日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　小野紀男
6　種別・時期　散布地　　奈良～平安時代
7　遺構・遺物　なし



第28図　南正徳遺跡調査位置図

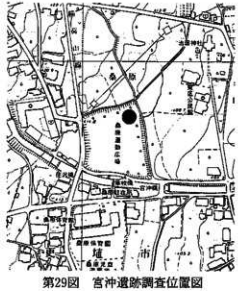
Ⅱ　調査の所見

調査地は約1.4mまで土取りにより攪乱され、遺構・遺物共検出されなかった。

18　宮沖遺跡　　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　宮沖遺跡（市台帳№71-3）
2　所在地及び　更埴市大字桑原字宮沖16番地
　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝防火水槽建設
　事業者　更埴市（総務課）
4　調査期間　平成12年２月21日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担当者　佐藤信之
6　種別・時期　集落跡　　奈良～平安時代
7　遺構・遺物　なし



第29図　宮沖遺跡調査位置図

Ⅱ　調査の所見

表土下は砂礫層となっていて、遺構・遺物共検出されなかった。

報告書抄録

ふ り が な	へいせい11ねんど　こうしょくしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書　　名	平成11年度　更埴市埋蔵文化財調査報告書
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	小野紀男
編 集 機 関	更埴市教育委員会　生涯学習課　文化財係
所　在　地	〒387-8511　長野県更埴市杭瀬下84番地　TEL　026-273-1111
発 行 年 月 日	2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
一丁田尻 遺跡	長野県更埴市 大字屋代字新田	20216	31-3	36 32 39	138 8 8	19991004～ 19991020	250	しなの鉄道新駅建設に伴う発掘調査

所収遺跡	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
一丁田尻	水田址	中世	水田面　1面 畦畔　1基	土師器、中世陶器	

平成11年度　更埴市埋蔵文化財調査報告書

発行日　平成12年３月31日
発　行　更埴市教育委員会
〒387-8511　長野県更埴市杭瀬下84番地
電話　(026) 273－1111
印　刷　信毎書籍印刷株式会社
〒381-0037　長野県長野市西和田470
電話　(026) 243－2105